

校長室から
(H30年度)

ひがしなら通心

茨木市立東奈良小学校 川上 隆 No. 19
平成30年7月9日(月)発行

「はきものをそろえる」とは…

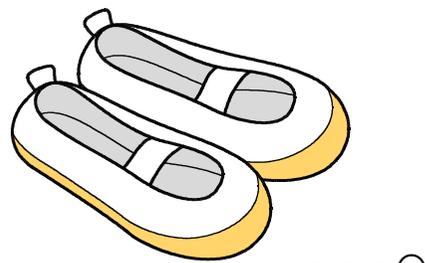
はきものをそろえると
心がそろう

心がそろうと
はきものがそろう

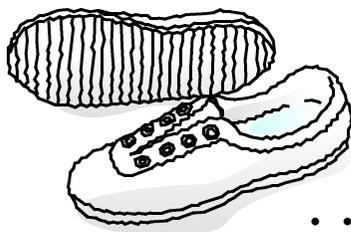
ぬぐときにそろえておくと
はくときに心がみだれない

だれかがみだしていたら
だまって
そろえておいてあげよう

そうすれば
世界中の人の心もそろうでしょう



…○



…?

この詩は、長野県にある円福寺というお寺の和尚さんだった藤本幸邦（ふじもと こうほう）さんという方が作った詩です。そこで今回は、藤本さんがどうしてこのような詩を作ったのかをお知らせしましょう。

今から70年以上前、日本は戦争をしていました。そして、その戦争が終わった頃、東京はたくさんの爆弾によって、焼け野原のようになっていました。そのようななか、上野駅の周りには、食べ物や生活に必要な物を売ったりするお店がいくつも並び、多くの人々が集まるようになっていました。しかも、大人だけでなく、戦争で親を亡くした子どもたちもたくさん集まっていたのです。その子ども達は、着る服もぼろぼろで、多くの子ども達が裸足でした。さらに、行き交う人々に物乞いをしたり、スリや置き引きなどをして暮らしていたのです。それを見た藤本さんは、とても心を痛めました。

そこで、藤本さんは、そのような子どもたちを自分のお寺で育てることにしたのです。そして、さっそく3人の子どもを連れて、長野県のあるお寺に帰りました。その後、育てる子どもたちの数が少しずつ増え、20人、30人と多

くなっていきました。ところが、ある日、玄関を見ると、脱ぎ捨てられたクツが折り重なったり、あちらこちらにばらばらになったりしていたのです。それを見た藤本さんは、また心を痛めてしまったのです。

そこで、藤本さんは、子どもたちに「はきものをほっぽらかしにしておくと、また戦争になってしまうぞ」と教えたのです。これがきっかけとなって、藤本さんは、この詩をつくったのだそうです。

この詩は、次のようなことを教えようとしています。

つまり、自分のクツをそろえずに脱ぎっぱなしにするという行動は、他の人がどのような気持ちになるのかということをもっと考えていないということを表しているのです。

しかも、自分さえよければいいといった、とても自分勝手な考え方しかしていないということを表す行動だということです。

反対に、自分のクツをそろえることができる人は、心が穏やかで、自分の行動を冷静に考え、他の人がどのような気持ちになるかも考えることができる人です。

しかも、そのような人は、他の人が乱したクツを、だまってそろえることができる人でもあるのです。

このように、一人ひとりが自分のことを落ち着いて見つめたり考えたりしながら行動することは、とても大切なことです。

しかも、他の人の気持ちにも考えを巡らせることができるようになれば、お互いに気持ちのよい生活ができるようになるのです。

そうすれば、争いごともなく、きっとみんながお互いのことを思いやる、平和な世の中になっていくことにつながるのだということです。

この詩をもとに、みなさんも自分の行動を、もう一度振り返ってほしいと思います。

みんなのためのルールブック

「あたりまえだけど、とても大切なこと」 ロン・クラーク 草思社

ルール41 映画館では、絶対におしゃべりしない

映画の上映中は、となりの人に言いたいことがあっても、しゃべってはいけません。ひそひそ話もだめです。

●前列の椅子の背に足をのせたり、ものを食べて音をたてたりするのもいけません。携帯電話はマナーモードにしておく。上映中に着信音をならすのはとても不作法です。